

## 金ヶ森城(金森御坊, 金森縣所) (守山市金森町) (善立寺)

1465年大谷を追われた蓮如は湖西の堅田と湖東の金森を拠点として布教に努めた。金森の道西上人とともに金森御坊を築き、城塞都市を築いていった。

また、比叡山と対抗し、史上はじめての一向一揆といわれる金森合戦を行っている。

江戸時代になるとその勢力も衰え、金森御坊も衰退していった。

(1) 寺名：善立寺(ぜんりゅうじ) <金森御坊の継承寺>

(2) 住所：滋賀県守山市金森町753

(3) 山号：金園山 (4) 宗派：真宗大谷派

(5) 開山：道西上人 (6) 開創：1465年 (7) 本尊：阿弥陀如来

(8) その他

1) 懸所宝塔：重文 鎌倉時代 石造宝塔の三名塔といわれる

高さ338cm

2) 織田信長朱印状：県指定文化財

「お寺の風景と陶芸」による

### 寺内町としての金森

14世紀に金森を支配していた川那辺厚春が本願寺五代目法主の綽如に帰依し、金森は天台宗から浄土真宗に信仰の基軸を大きく変えていった。その子川那辺在貞の時代には金森惣道場が開かれるにいたり、さらにその子川那辺矩厚は、存如に帰依し道西と名乗るようになった。金森惣道場(金森御坊)を中心として民家を環濠で取り囲んだ寺内町が形成されたのは、この道西の時代であると考えられている。江戸時代の「金森地図」(金森御堂保存)には周囲に濠を巡らし、土居を築いた跡が見られることから、金森は宗教的性格と防御の城郭的機能をあわせもった寺内町の初期的形態である、ということができる。現在も周辺には濠跡とともに大門や城ノ下などの地名が残されている。当時、二百軒を越える集落であった。

1465年(寛正6年)、比叡山僧兵による「寛正の破却」によって大谷の地を追われた本願寺派の指導者・蓮如は、高弟であった道西のもとに身を寄せた。さらに、付近の門徒衆を結集し比叡山の山徒衆に反抗。これを金森合戦といい、史上初めての一向一揆である。1466年(文正元年)十一月には「報恩講」を勤修した。蓮如は1469年(文明元年)は対岸の堅田へ移動したが、金森は本願寺派の中心地として栄え、金森御坊を中心とする計画都市が形成された。

後に飛騨国高山城主となる金森長近は1541年(天文10年)までこの地で育ち、父の姓大畑から改名し、金森を名乗っている。

戦国時代には、近在である三宅の蓮正寺と連携した城としての機能が整えられ、湖南地域の一向宗徒の拠点となっていた。金森の一向宗徒は、織田信長の近江入国・比叡山焼き討ちの直前に、1571年(元亀2年)6月から9月にかけて反抗した。金森には近在の村々から一向宗徒が集結したが、石部・常楽寺に本陣を構えた信長配下の佐久間信盛によって攻められ、比叡山焼き討ちを優先した信長と一時は人質を交換して和睦した。しかし、翌1572年(元亀3年)には信長は近在の百を越える村々が「金森・三宅への出入や荷担をしないよう」という起請文をとられ、町域はいったん荒廃しかけた。しかし同年、信長によって楽市楽座の制札が与えられ、以後宿駅・市場の二つの性格を持つ集落となった。その後江戸時代に、琵琶湖渡航の主要港が矢橋港になると志那街道の役割が薄れ、金森も衰えた。

Wikipediaによる

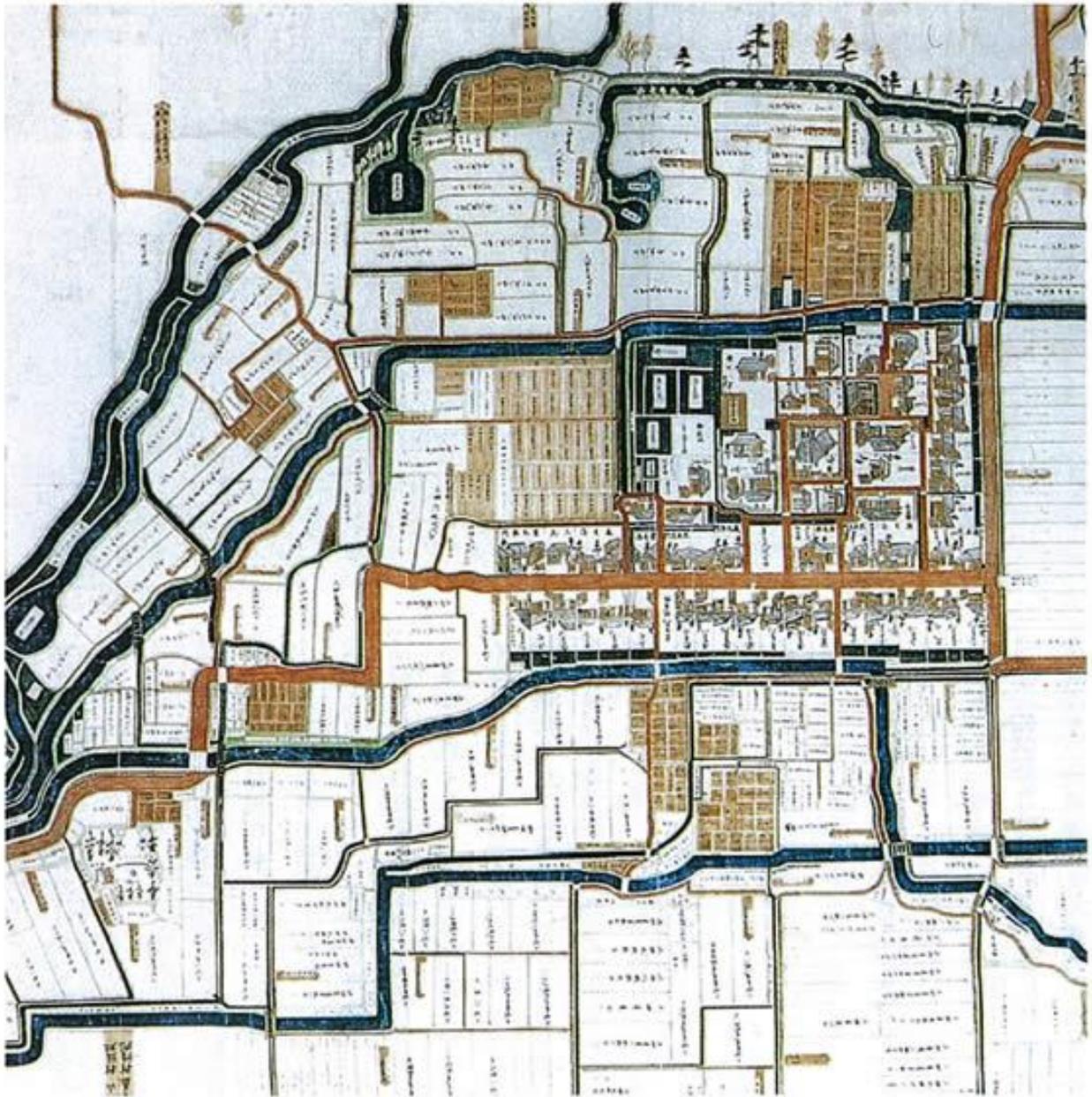


図 寺内町金森絵図 天保7年 (金森自治会蔵)